

5月20日のNo39号の御報告から約40日。順調に1町歩~2町歩進んでいた種まきに6月に入ってからの低温、冷雨により、かってない異変が生じていました。

5/25の降霜後、史上最低温の4月の再来の中、銀手亡、雪手亡のインゲン系、大正金時、とら豆の菜豆類、発芽不良の発生でした。常々申し上げてますように、一切を自然界にゆだね、完全無肥料無農薬で最大の自然力を引き出させて頂くカギは、適度な温度、乾度、湿土を土壤に如何に具現させて頂くか。



~ 銀手亡の二葉 ~

特に一年一作きりの北限の当地では播種時に最大の神経を使います。向こう一週間の天気予報を朝昼晩いつも意識し土の状態を見極め、作業段取りの優先順位を決め、一刻一刻ムダなく自然界の靈氣、空気の中に順応し、大自然という舞台の中に、我が身をゆだねてまいります。

しかし気候条件は天のお許しがなければ順調にはまいりません。

5月に予想もしない高温になりながら、北国では当たり前の低温基調が6月に入って一斉に作物が成長期に入ろうとした時、やってくるのです。

降霜被害を恐れながらビクビクしてすごしていた5月播種のものがスクスクと育ち、もう大丈夫だろうと安心しきっていた5月末~6月初播種のものが、インゲン、菜豆類、降霜被害こそ避けられたものの、低温、冷雨被害にさらされ、土の中で種子が腐るもの、発芽しかかかっていても温度不足で長期間地中であって、虫に食べられ、通称ポーズ（二葉が虫に食べられ、芯だけポーズ頭の状況で発芽して、それ以上成長しない）被害にあい、圃場の3~5割、最悪7割も空地状態となりました。

私共の記念日6月15日の早朝下した結論は、この30年私共夫婦にとって未知の自然農業を継続、発展していく基礎的信条、どんな悪状況にも、のまれることなく（例えば手遅れした除草により、作物が草にうずもれた時の対策、降霜低温で発芽不良となった時の対策、一年かけた作物が流通にのらない時の対策）必ずやピンチをチャンスにきりかえていく逆転の連続性を淡々と粛々と投げ出さずに手を打たせて頂く事でした。

総面積3町1反の銀手亡は4反歩をまきなおし、30kgを差し豆（手まき）

同じく3町5反の雪手亡は5反歩をまきなおし、30kgを差し豆。6/15~6/22の一週間黙々と実行、完了させていただきました。

通常、自然農法では肥料を入れる手間も必要なく機械で4列ずつ、筋きり、播種、覆土、鎮圧していく作業はわけなくできます。

手作業で、一列ずつ発芽してないところをクワで筋きり、2粒ずつ播種し、足で覆土し鎮圧する作業を計算すると、30kgは7反部分の種子ですので銀、雪手亡それぞれに7反歩ずつ手播きした事になります。

終了した後に、順調に気温が上がり、適度な降水もあって、徐々に発芽し先輩豆に追いつけ追い越そうとする新鮮な営み、又新たな感動となっております。

厳しい冷害からのがれる為に、この100年当地の農民がたどりついた営農基盤は寒さに強いけど、多肥料、多農薬の玉ねぎ、ビートを主とする作付け体系でした。

そして多頭飼育の酪農と合わせて地下水、河川汚染をひきおこし、オホーツク沿岸の漁業にも悪影響の懸念されております。

育てる漁業を目指す農民は、河川上流の森林活性化の為、植林事業も展開される中、私達農民そして、都市消費者も自らの健康と地球環境の改善に最良の食生活は如何にあるべきか。熟考しなければならない背水の陣に立たされているような気が致します。



～ 歳時記 著者 秋場氏 ～

昨年11月末の腰痛に始まり正月過ぎ解決。そして2月からの難聴と、解決しては繰り返し。私54才、妻55才若さと気力で走り続けた30年、できる限り本気で継続的な健康対策考えなければならぬ時に夫婦ともやってきたようです。

42年前11才の時、交通事故にて右頭が骨陥没、右手50針ぬう大手術。意識不明の中、医師が切断回避の為、麻酔なしで手術決断したため何とか右手つながりその後2ヶ月間24時間つきっきりで亡き祖母が献身的治療、必死で取り次いで下さって右頭も、右手もほぼ完全に機能するようになり、

医師もつなげる事はできても、機能を回復するまでは無理と思っていたと、奇蹟に感動、述懐しておられました。

生涯を通じての皆様尽しの中に北限での無肥料自然農法実現する事許され、心より感謝しております。今回右耳が完聴10として、腰痛解決の後5.5くらいまで機能おちてかなり聞きにくい状況となり、自然療法で8~10くらいに戻りました。そしてよく検証してわかった事は、右耳がこの42年いつも5の状況だったようです。

春の種まき佳境に入った5/20頃より仲々治療時間とれなくなりかかった時、女房と話し合い、日の出の4:30から活動開始の習慣の外枠つまり2:00~3:30ぐらいに目覚めるように努力し起床、洗顔、そして先ず治療のリズムでいこうと決心しました。

実行し始めて1ヶ月後6/20師事する方を空港へお迎えに行く途中、いきなりゴーンという雑音が耳に入ってきました。

右耳が42年ぶりに8~10の状況に聞こえるようになったのでした。

4人の子供達がそれぞれに社会に貢献しようと巣立っていった今日、まだまだ朽ちていくわけにはいきません。

日々の精神と努力の中で、自らの健康を回復、維持しつつ、人びとと社会の健康につながる営みの日々を一層真剣にすごさせて頂く事をお誓いして、歳時記40号とさせていただきます。

～ 語句説明～

1反(歩): 300坪

1町(歩): 3000坪

播種: 種をまく事

圃場: 畑のこと